

国際社会学部

篠田英朗

Hideaki Shinoda

国際関係コース

国際政治学（平和構築・紛争分析）



国際政治学とは

国際政治学は特定地域に焦点を絞るというよりは、国際社会の全体的な傾向を分析したり、グローバルな政策課題について研究したりする学問分野です。国際社会においては、歴史的に戦争が沢山起こってきましたし、現代でも沢山起こっています。紛争分析は、それらの武力紛争を多角的に分析研究していくことを指します。平和構築は、武力紛争の社会的構造を克服し、永続的な平和を作り出すために行う政策のことを指します。

研究紹介

現代国際社会の武力紛争の分析を行い、それらに対応する国際平和活動についても研究しています。加えて構造的な背景も分析していくために、国際社会の全体的な動きに関する理論、歴史を捉える視点、法規範のあり方にも関心を持って、論文や本を書いたりしています。

第3回大佛次郎論壇賞（2003年）

第34回サントリー学芸賞（2012年）

第18回読売・吉野作造賞（2017年）



担当授業

- 国際政治概論「国際秩序論」
- 平和・紛争論「紛争解決論」
- 平和・紛争論演習「平和構築と問題解決型学習」

関連する分野

- 国際関係学
- 紛争解決学
- 国際法
- 政治学

出版物

- 『戦争の地政学』(2023年)
- 『集団的自衛権で日本は守られる；なぜ「合憲」なのか』(2022年)
- 『パートナーシップ国際平和活動：変動する国際社会と紛争解決』(2021年)
- 『紛争解決ってなんだろう』(2021年)
- 『はじめての憲法』(2019年)
- 『憲法学の病』(2019年)
- 『ほんとうの憲法』(2017年)
- 『集団的自衛権の思想史』(2016年)
- 『国際紛争を読み解く五つの視座 現代世界の「戦争の構造」』(2015年)
- 『平和構築入門：その思想と方法を問いなおす』(2013年)
- 『「国家主権」という思想：国際立憲主義への軌跡』(2012年)
- 『国際社会の秩序』(2007年)
- 『平和構築と法の支配：国際平和活動の理論的・機能的分析』(2003年)

国際社会学部

平和構築ゼミ

どのようなゼミか

本ゼミは、国際政治学（平和構築・紛争分析）を専門とする篠田英朗を担当教員とするゼミです。ただし方法論的な視座を学ぶための切り口として「問題解決」の考え方にこだわり、文献読解や全体討議だけでなく、グループ作業なども重視しています。3年春学期では紛争分析・平和構築の基礎文献を読み、討議を重ねます。あわせて民間企業で「問題解決」型の発想と言われているものについて学んでいきます。3年秋学期では、JICA（国際協力機構）やUNDP（国連開発計画）のプロジェクト立案の手法を題材に、国際協力分野での「問題解決」の手法について考えていきます。最後は自分たち独自のプロジェクトを立案していきます。4年になると学生の進路や卒論テーマに応じた題材を選びながら、卒論の執筆・指導を進めていきます。

ゼミ担当者は、国連、外務省、JICA、NGO等の実務家機関とともに各種ワークショップの仕事に携わってきています。それを反映した内容にもなっています。卒業生も、国連職員、外務省・防衛省等の国家公務員、JICA職員などの公的セクターのみならず、民間企業にも進んで各方面で活躍しています。



卒論

- 国際安全保障の文脈における国際法によるサイバー攻撃の規律可能性の検討：サイバー空間における選挙干渉に対する内政不干涉原則の適用の検討を中心に（2022年度国際社会学部賞 [優秀卒業論文]）
- ウクライナ危機を長期化させている紛争当事者の地政学的利益の分析（2021年度国際社会学部賞 [優秀卒業論文]）

ゼミ生の声

私たち篠田ゼミでは平和構築について扱っています。平和構築？堅苦しくて難しそう…なんて思ったそこの貴方！篠田ゼミは先生のユーモア溢れるお喋りと個性豊かな同期や先輩に囲まれた暖かい空間です！先生は私たち学生に親身に寄り添ってくださり、進路相談だけでなく日常の悩み相談にも乗ってくださいます。同期や先輩との繋がりも強く、ゼミ合宿や食事会、就活体験談共有会も開催されています。研究テーマは平和構築のみに限定されておらず、昨年の卒業研究のテーマもクールジャパン政策や日本的経営からウクライナ侵略やイエメン内戦まで、一人一人の興味に応じて様々でした。3年生で扱うMECEやPCMは就職活動にも役立っています。もちろん国連文書読解や紛争分析手段学習も行います。省庁や独立行政法人を志す方にもおすすめめのゼミで、先生がゼミ内で貴重な裏話を共有して下さいます。就職実績も良好です。篠田ゼミ一同、後輩のみなさんをお待ちしています！